

# そよかぜだより

第92号  
発行 2010.1.17  
毎月1回発行  
社会福祉法人  
そよかぜ

### 連絡先

ひばり園 578-0855  
FAX 578-0466  
くれよん 578-2575  
つくしの家 578-0855  
あおぞら 570-6110  
エール 570-1233

資源回収時のご連絡は  
「ひばり園」へ

## あけまして

## おめでとうございます

今年もよろしくお祈りします

### 平成二十二年の新春を迎えて

社会福祉法人 そよかぜ

理事長 野崎 功 市

明けましておめでとうございます。皆様には、輝かしい新春を迎えられたこととお喜び申し上げます。今年も東日本の各地は、抜けるような青空のもとで穏やかな新春を迎えることができました。しかし、昨年は政治、経済、社会などいろいろな分野にわたり、大きな変革が行われた年となりましたが、依然として景気の低迷や雇用不安など多くの課題を抱えながらの越年となりました。

こうした影響を受けて「ひばり園」や「あおぞら」の授産事業は、企業からの受注が激減し、日々の事業継続に苦慮するという事態が生じるなど多難な状況が続きましたが、昨年末に入り、少しづつ改善の兆しがみられるようになり、一月六日から新施設での授産事業が始まりました。今後状況についてはまだ楽観は許されませんが、何とか現状維持で推移することに期待をかけているところです。

さて、平成二十一年は「そよかぜ」にとりまして、大きく飛躍した記念すべき年となりました。昨年三月五日に東京都知事から社会福祉法人としての認可を受けることができ、さらに国庫補助を受けて、三月十日に着工した新施設「ひばり園」が、十一月二十八日に竣工式典の運びとなり、十二月一日から新しい施設での授産事業を開始できたこと

ご協力ありがとうございました。 12月の募金 38,363円  
平成21年4月～12月の合計 291,475円  
(順不同)

居酒屋たんぽぽ	様	とまと美容室	様	藤野 和子	様
阿部 光子	様	高橋 典子	様	鰻沢 道子	様
宮沢 啓	様	加藤 春花	様	山田 隆章	様
佐藤 佐夫	様	加藤 夏花	様	臼井 信行	様
込宮 正夫	様	加藤 和輝	様	村野 理子	様
帯刀 幸子	様	井上 誠一	様	平岡 知子	様
小林 幸一	様	濱野 岬	様	田村 由親子	様
山下 暉枝	様	宇津木 牧夫	様	田村 千佳	様
北野 浩美	様	清水 賢	様	天満 喜代子	様
山崎 六雄	様	清水 知子	様	関村 理	様
大野 元雄	様	渡辺 時三	様	関村 英希	様
袴田 実	様	国本 昭治	様	田中 明子	様
森田 勝	様	阿部 郁子	様	橋本 亜紀子	様
榎本 正代	様	長谷川 キヌ子	様	清水 キヨ子	様
松岡 竹子	様	尾又 恭子	様	角野 克子	様
角野 満壽子	様	下田 コウ	様	山影 幸子	様
大内 たま子	様	川崎 利男	様	大野 素子	様
竹内 照夫	様	渡辺 四郎	様	小沢 達子	様
土屋 三枝子	様	吉野 満里子	様	平野 嘉子	様
斉藤 忠	様	永岡 智恵子	様	田中 稔	様
本町東寿会	様	桜沢 喜作	様	アバンバンデックス	様
アサカワノ	様	匿名様(6,800円)			

でありました。ここにあらためて羽村市御当局をはじめ多くの関係者皆様から感謝と御礼を申し上げる次第です。  
なを、今年も懸案となっており、精神障害者家族(2面へつづく)

### 社会福祉法人 そよかぜの

## 《資源回収》に

### ご協力をお願いします 新聞、雑誌、ダンボール

(ボロは扱っていません)

12月は24,560tでした。金額は331,729円となりました。この収益は、社会福祉法人そよかぜの運営資金になります。みなさまのご協力ありがとうございました。

### 2月は第3日曜日21日です。

大雨の場合は、次週の日曜日に順延します。

ご連絡は、ひばり園へ  
羽村市栄町3-3-1  
042-578-0855

くれよん 12月の売上げ  
851,130円でした。

羽村市内の小中学校と中学校の生徒のみなさんが、各学校単位でプルトップ収集にご協力して下さっています。ありがとうございます。

会が運営するスマイル工房を  
当法人の運営に統合し、その  
一部門として活動していただ  
く予定でございます。いづれ  
にいたしましても、平素から  
関係皆様のご協力をはじめ、  
行政当局、企業、団体、市民  
の温かいご支援、ご指導をい  
ただきながら、授産事業をは  
じめ各種事業を進めることが  
できておりますことに対し、  
あらためて感謝を申し上げます。

本年も厳しい状況下にあり  
ますが、すべての障害者が安  
心して働くことができる環境  
整備に向け、地域の中核的障  
害者施設である社会福祉法人  
としての視点に立って、工夫  
改善を図り、さらなる飛躍が  
できるよう役員一丸となっ  
て努力して参りたいと考えて  
おります。

どうか本年も関係者皆様の  
変わらぬご支援、ご協力をお  
願いし、新年のご挨拶とさせ  
ていただきます。

平成二十二年一月十二日

## 元日、車椅子の息子を連れて

### ショッピングモールに出かけると

今年の元日のことです。日  
の出のイオンモールでお正月  
の企画でウルトラセブンが、  
希望者と握手をしてくれると  
いう新聞の折込チラシがあり  
ました。帰省していた息子が  
喜ぶだろうと思っ出て出かけて  
みました。息子は四十一歳に  
なりますが、重度障害のため

に興味の対象は幼児と同じ程  
度です。子供のころテレビで  
覚えたウルトラマンがいま  
も大好きです。

元日だから人も少ないだろ  
うと思っっていたら、予想は大  
はずれで大変な混雑でした。  
店内の会場にはすでに大勢の  
人が行列をしていました。先  
着五十名に整理券を渡して、

整理券と引き換えにセブンの  
ポーズをとって握手をしてく  
れるのだそうです。もちろん  
子供向けの企画ですから、並  
んでいるのは親に連れられた  
子供たちばかりです。セブン  
が出てくるまでにはまだ一時

間もあるし、三〜四歳の子供  
がわいわいいるので私はうん

ざりして考え込んでしまいま  
したが、すっかりその気にな  
ってセブン、セブンと口走っ  
ている息子を、セブンに会わ  
せないで連れて帰るのは、親  
としてもつらいものがあるの  
で、やむなく列の後ろに立っ  
て待つことにしました。

さあ、それからが地獄の一  
時間です。並んでいる人をよ  
く見ると、小さい子供と若い  
親ばかりです。その中で、子  
供連れでなく七十歳を過ぎた

私と四十歳を過ぎた息子の姿  
は、場違いで不自然そのもの  
です。そのことは覚悟の上で  
したが、問題は退屈した子供  
たちが、物珍しそうに車椅子  
に乗った息子の周りに集まっ  
てくることです。すぐそばに

来てじーと息子の顔をのぞき  
込みます。「どうしたの、こ  
の人？」と聞く子には「足が  
悪くてね、歩けないんだよ」

と返事をします。「ウルトラ  
マンを見にきたの？」と思  
議そうに聞く子には「大人に  
なってもウルトラマンが好き

な人もいるんだよ」と答えて  
やります。

ほとんどの子供は、何も言  
わずじーと見ているだけです。  
普通、街の中で障害のある人  
に出会ったとき、珍しそうに  
のぞき込むのは失礼になりま  
すから遠慮するものですが、  
子供にはそんな遠慮も気遣い  
もありません。いつのまにか  
私と息子の周りに子供の輪が  
できました。若い親たちは、  
親同士のおしゃべりに熱心で

子供のことはほったらかしで  
す。だからといって「あっち  
へ行きなさい」といって追い  
払うこともできません。

実に居心地の悪い時間を耐  
えて、ようやくウルトラセブ  
ンが出てきました。整理券が  
手に入らなかつた人たちが一  
般のお客さんが見守る中で、  
ふいに子供ではなく車椅子に  
乗った大人が出てきて、セブ  
ンと握手をしポーズをとって

はしゃぐ姿は「えー、なにこ  
れ」というみんなの視線を感  
じて、注目を集めるには十分  
過ぎるものがありました。

このような催しの場でなく  
ても、これに似た経験は長い  
間に何回もしてきましたので、

私自身は慣れているつもりで  
した。たとえば息子を連れて  
レストランなどに入った場合  
によくあることです。楽しそ  
うに笑いながら話していた人  
たちが、息子と私が隣の席に  
座ったとたんに、しーんと静  
まることなどは数え切れない  
ほど経験してきました。しか  
し今回は特に強烈だったので、  
終わって人ごみから離れたと  
きは本当にほっとしたもので  
した。

そのあと、空いているコー  
ヒーショップの隅で二人で休  
憩していると、初老のご婦人  
が「失礼ですが、ちょっとい  
いですか」といって近づいて  
きました。「このすぐ近くに  
日の出福祉園という障害者施  
設があるんですが、ご存知で  
すか」といいます。「ええ、  
よく知っています」と言う  
とご婦人は椅子に座って話しは  
じめました。

「先ほどウルトラマンのと  
ころでお二人を見たとき、私  
にはすぐ分かりました。二人  
は親子だろうと。このお子さ  
んは施設に入っているのだら  
う、お正月だから家に帰って  
きて、好きなウルトラマンを

見せてあげようと思っってお父  
さんが連れて来られたんです  
よね。私の娘も日の出福祉園  
に入っているから分かるん  
です。でも私はこの歳だからも  
う家に連れて帰れないんです、  
さつき面会にいつてきたとこ  
ろです。その帰りにここに来  
たんです。お二人を見て、あ  
ーいいなあと思いました。だ  
から私は決めました。明日、  
息子に頼んで娘をここに連れ  
てきてやろうと。人にどんな  
に見られても気にしなくてい  
いんですよ。子供が喜ぶな  
ら、それだけでいいんですよ  
ね。うちの子は、ウルトラマ  
ンのことは分からないけど、  
一日中施設の中にいるより、  
大勢人のいるところへ来るだ  
けで喜ぶはずだから。そのこ  
とを二人は教えてくれたの  
ね」と言いながら、息子の手  
をとって「よかつたね、よか  
つたね」と言いました。見る  
とご婦人は両方の目に涙を浮  
かべていました。

子供たちの興味しんしんと  
した目、大勢の、なにーこれ  
という目、そしてご婦人の目、  
社会の縮図を見せてくれた元  
日の一日でした。